

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：衛生費 項：保健予防費 目：母子保健指導費

事業名 双子等妊娠期サポート事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 子ども・女性局 子育て支援課 母子保健係

電話番号：058-272-1111 (内 2684)

E-mail：c11236@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 4,721 千円 (前年度予算額：3,300 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	繰入金	県 債	一 般 財 源
前年度	3,300	0	0	0	0	0	0	0	3,300
要求額	4,721	0	0	0	0	0	0	0	4,721
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・双子等を妊娠中の妊婦及びその家族には、妊娠期からの長期入院による孤立化、多胎に特化した育児指導がない等による情報不足、母体の体力低下や育児量の多さ等による育てにくさといった課題がある。こうした社会的・身体的・精神的負担を軽減し、虐待予防を図るうえで、多胎に特化した妊娠期から育児期までの一貫した支援体制が求められている。
- ・本事業は、双子等を妊娠中の妊婦を対象とし双子家庭を妊娠中から継続的にサポートするものであるとともに、サポーターの養成も実施する。また、支援者は育児経験者を構成員とした団体であることから、自身の経験を生かした支援が可能であり、支援されたものが次の支援者になることができるため、地域に根付いた継続的な支援につなげることができる。

(2) 事業内容

- ・多胎児プレママパパ教室 (双子等を妊娠中の妊婦及びその家族を対象とした教室)

- ・多胎妊婦（やむを得ず病院に入院している方や自宅療養中の方等）訪問等支援事業
- ・多胎児ピアサポーターフォローアップ事業

（３）県負担・補助率の考え方

県全体の双子等の育児支援体制の整備する必要があることから、県として事業を実施することは妥当である。

（４）類似事業の有無

無

３ 事業費の積算内訳

事業内容	金額（千円）	事業内容の詳細
旅費	11	業務旅費
消耗品費	60	事務経費
役務費	60	事務経費
委託料	4,590	多胎児プレママパパ教室、多胎妊婦訪問等支援事業、ピアサポーターフォローアップ事業に要する報償費、旅費等
合計	4,721	

決定額の考え方

４ 参考事項

（１）事業主体及びその妥当性

双子等の育児経験者を構成員としたNPO法人ぎふ多胎ネットは、自身の育児方法等経験を生かした支援が可能であることから、本事業をぎふ多胎ネットに委託し事業を実施している。

事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

各地域において、医療機関、行政、多胎児サークル等が連携し妊娠期から、育児期までの一連の支援体制を整備し、双子等の家庭が地域生活において安心して子育てができることを目指します。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
研修を受けたサポーター数	0 (R2)	10 (R3)	15 (R4)	0 (R2)	20 (R5)	% 0

○指標を設定することができない場合の理由

(前年度の取組)

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

- ・多胎児プレママパパ教室（各圏域において2回程度開催）
- ・多胎妊婦訪問等支援事業（やむを得ず病院に入院している方や自宅療養中の方等）

(前年度の成果)

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

前年度までの取組により、妊娠期から育児期までの一連の支援体制の整備、支援者の育成が成果として挙げられる。

今後は、それらの成果を活用し、引き続き地域で切れ目ない双子等への支援が継続されることで母の孤立化予防、虐待予防を図る必要がある。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い 	
(評価) ○	妊娠期から育児期まで切れ目ない継続的な支援の実施により、虐待予防の観点からも事業の必要性は高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	妊娠期からの支援により、地域の医療関係者やピアサポーターとつながることで、対象者にとっては、安心して育児期を迎えることができる。また地域の医療関係者は、虐待のハイリスク因子である双子等の家庭に妊娠期及び出産後も早期に支援に入ることが可能である。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある 	
(評価) ○	参加者が、自身の双子等の出産・育児経験を生かし次の支援者となることが可能であるため、事業の実施とともに次の支援者の育成を図ることで継続的な活動につながる。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>多胎妊婦や双子等の家庭では、周りに仲間が居ないことによる孤立化、多忙な育児等虐待のリスクが高まることから、妊娠期の早い段階で、地域の支援者や先輩ママパパとつながることで虐待予防が必要である。</p>

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>双子等の家庭が安心・安全な妊娠期及び育児期を迎えることが出来る様、継続した支援体制を維持することで、新たに発生する双子等の虐待予防につなげる。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由や期待する効果 など	